

～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと 里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

【活動団体】

鹿背山の沢沿いの土地の多くは、水田として活用されていましたが、社会情勢の変化で徐々に耕作が停止され放置されました。

この結果、水田には篠竹が生い茂り、稻作はもとより、多様な生物が生息できない瀕死の環境へと変わってしまいました。

瀕死の環境を改善し再び稻作ができる水田に再生しようと、12年前に発足した鹿背山俱楽部のみなさんが、文字どおり「手」をかけて、稻作ができる水田に再生してくれました。

また、南谷を活動フィールドとする鹿背山元気プロジェクトの皆さんには、生活スタイルの変化で利用されなくなった森に手を入れることで、かつてのように松茸が採れる山へと再生しました。

鹿背山俱楽部と同様に北谷を活動フィールドとする、NPO法人京都発・竹・流域環境ネットの皆さんには、放置され竹が繁茂して薄暗かった竹林を、竹の子が収穫できる竹林へと見事に再生しました。

これら活動団体の手が入る里山は再生しましたが、里山再生は手間ひまを惜しんではできませんし、歩みを止めることもできません。

活動団体の平均年齢が毎年上がっている現状を考えると、新たな担い手に加わってもらえるかが、継続できる鍵となります。

そこで、将来の担い手である若い皆さんに里山を身近なものに感じてもらおうと、今年度には里山学校を開校しました。

【みもろつく鹿背山里山学校】

里山から遠い存在となっている大人や、里山遊びをしたことのない子ども達に自然の恵みを受けてもらい、自然の不思議を知ってもらいたいと始めました。

今年度は、16家族40人の参加者が学んでおり、半年の開催を終えることができました。

4月は開校式に続き、里山の成り立ちと、そこに生息する動植物の話を聞きました。午後からは竹の子を掘りました。竹やぶの斜面は急で上り下りが大変でしたが、子ども達は始めての体験に大興奮でした。

5月はお米栽培に挑戦。田植えをしました。併せて、グリーンウェーブ活動としてドングリの苗木を植樹しました。

6月は鹿背山で暮らす案内人に鹿背山集落を案内してもらいました。

7月は里山で火起こし体験と地元産の夏野菜をふんだんに使った野外料理に挑戦しました。

8月はお休みして、9月は冬野菜を育てようと大根の種をまき、白菜の苗を植え付けました。併せて、稻刈り後の天日乾燥をする準備として、竹を切り出して「はさ」の準備をしました。

10月にお米の収穫を済ませば、冬の山仕事として里山整備や竹林整備を体験します。このように、さまざまな体験をとおして里山を身近に感じてもらいたいと願っています。



【里山へGO！（里山活動に参加してみよう）】

鹿背山で活動する団体の里山活動を体験してみたい方や参加してみようと思われた方は、気軽にご連絡ください。

木津北地区保全推進室（都市計画課内）☎ 75-1222 ✉ kizukita@city.kizugawa.lg.jp